



# 架け橋だより No.5

令和7年7月28日  
流山市教育委員会指導課  
幼児教育支援センター発行

## 架け橋期 1年生のスタートは・・・

今年度の4月、5月、市の幼児教育アドバイザーが全公立小学校にお邪魔し、入学したてのピカピカな1年生の様子を拝見することができました。

幼児教育・保育施設は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(以下10の姿)」を方向目標として「遊びを通して学んでいくこと」を。小学校では、3観点の「資質・能力」の育成を核とすることで、幼・保・小が円滑に接続できるよう、実践されていることと思います。

では、入学したての1年生には、具体的にどのような指導・支援が求められているのでしょうか。新1年生を迎えた各小学校では、こども達の実態を丁寧にとらえながら、実態に合った接続のしかたを模索されていました。ここでは、各小学校の行っている工夫を紹介し、1年生のスタートについて一緒に考えていきたいと思います。



仲良くなるような遊びや仲間作りを取り入れ、信頼関係を築きながらゆったりと。

45分間の授業を15分刻みにし、意欲の継続を図る。



向き合えるように班を作り、こども同士の関わりを意図的に作る。(環境の工夫)

様々な場面での自分の思いや考えを表現(自己表現)させる工夫をする。



園での経験を引き出し、これまでの学びや経験を生かせるようにする。

### キーワードは“安心感”

入学当初、まずは、1年生一人一人が友達や先生を信頼できるという安心感を育むことが大切で、その土台の上に学校生活を積み重ねていくことが求められるのだと感じました。

発想の転換が必要だと気付いた！

職員みんなが知るべき！

令和7年度第1回幼保小合同研修会

## 寶來生志子先生によるご講演 反響大きく！

演題:こどもたちの育ちや学びを引き出すカリキュラム～幼保小のつながりの構築に向けて～  
6月3日、東海大学 准教授の寶來生志子先生をお招きして、第1回幼保小合同研究会(旧:保幼小関連教育研究会)を開催しました。

- メニュー1「学びに向かう力」を育もう
- 2 スタートカリキュラムを知ろう
  - 3 学校探検の様子を見てみよう

内容は

- 1 価値ある体験を通して「手応え感覚」(充実感、達成感、自己有用感、一体感)を得、何度か経験することで安定し、「学びに向かう力」となる。
- 2 「第3ステージのスタートカリキュラム」(たくさんの知識や技能を獲得している。知識を押し付けない。こどもの意思を尊重する。等)にする。
- 3 主体性の芽を摘まないための学習を考えていく。(実際の生活科の授業のビデオを視聴)



以下、受講者の声です。

- 今回の研修を通して、架け橋期について年長の担任、小学校の1年生の担任のみで考えてしまっていたが、保育園全体・学校全体で考えなければいけないと感じました。
- 自園がやっていることは、間違っていなかったと自信が持てました。こどもの気持ちを尊重した活動とはどういったものなのか考えるきっかけになりました。研修で得たことは、職員全体に伝えたいです。
- 自分たちの行っていることは、古い考え方のこどもたちのやる気を失わせてしまう指導だと気づきました。学校が変わっていかなくてはいけないと思いました。
- 活動を行う際、ルールや約束事を確認してから活動に入っていました。こどもたちの考える力や主体性を大切にできていなかったと感じました。
- 自園では、小学生になって困らないようにと、学習や生活態度について指導することがあります。5歳児クラスで特にこのような指導を行ってきたが、ご講演を聞いて、無理に小学校に合わせていく必要はないのだと知ることができました。
- 小学校への入学＝「長い時間の着席や立って靴が履けるようにしておく」自分の中では大切なことだと思っていましたが、考えを改める必要があると思いました

## 今年度より開催！「幼保小連携の日」 ～顔の見える関係づくり・つながりの構築を！～

6月から各小学校で、「幼保小連携の日」がスタートしています。本事業は、教職員同士が交流することをおして、各校・園のカリキュラムの工夫改善につなげることを目的としており、各小学校が話し合いのテーマを設け、活発な意見交換が行われています。その一部をご紹介します！

### 小学校のスタートカリキュラムを よりよくするために

園での取り組みを知り、入学当初の安心感をもって学校生活をスタートさせたいです。(小)



小学校の先生方とお話しすることができて、安心しました。(幼保)



↑ 学校の取り組みをもとにグループ協議。校内見学も。 ↑ 見学会と同日に「幼保小連携の日」を開催

### 幼保で育ててきた「10の姿」が 小学校の授業のどんな場面に表れていたか

小学生になったこともたちの意欲や意識の高まりを感じました。(幼保)



今回参加した職員だけではなく、全職員で架け橋期の教育について研修していきます。(小)



### 子どもたちが、より主体性を発揮できる 教育・保育を目指して…



「学びをつなぐ」という観点をもって、園の様子を見に行きたいです。(小)

小学校はもちろん、幼稚園、保育園同士も互いの取り組みを知る機会になりました！(幼保)



↑ 小学校の授業を VTR で視聴後、情報交換。

どちらの園の先生も、小学校の先生も楽しそうに話をされていて、みんな子どもが大好きで、これからの成長を楽しみに日々注力しているのは同じだと、改めて感じることができました。(幼保)

### 小学校見学会

幼保小の相互理解を深めるため、幼保の先生方が1年生の授業を参観する「小学校見学会」。多くの小学校で第1回幼保小合同研修会での学びを生かした授業を展開していただきました。



(幼保の先生方の感想より)

★小学校の先生がこどもの意見を丁寧に聞いている姿が印象的でした。

★幼児期にたくさん遊び、培ってきた創造力や試行錯誤する力、協力する力などが発揮される場面がたくさんありました。



## 第1回 幼児教育希望研修を終えて



幼児教育支援センターでは、健康福祉部、子ども家庭部とともに、幼児教育・保育の更なる推進のための議論を進めており、今年度より、多様性に応じた教育・保育を実現するために、幼児教育希望研修会を開催する運びとなりました。今回の研修では、特別な配慮を要するこどもの育ちをつなぐ連携体制づくりに向けて以下のことを取り上げました。

### ●チーム支援のための組織づくりについて

よりよい保育や支援を行うために、職員同士が協力し、情報を共有しながら園全体の保育の質を高めていくことを目的としています。

### ●特別支援教育コーディネーター等の役割

園内の支援体制づくりや職員同士の連携、保護者や外部機関との調整などを行う役割を、小学校や幼稚園では特別支援コーディネーターが担っています。

### ●個別サポートファイルの活用について（児童発達センター所長 石山 和与様より）



#### サポートファイル

こどもの成長過程や支援内容など出生から現在にかけての情報を各機関で共有し、地域生活における一貫した継続的な支援が受けられることを目的としたファイルです。

これが、サポートファイルです

### ★ここが大切！★

- ☆ファイルは、保護者が作成するが、必要に応じて園・学校・支援機関などの協力のもと作成する。
- ☆支援者が知ることによって複数の機関での経過を把握しやすくなり、支援の手立てを共有することができる。
- ☆関係機関が知ることによって活用が広がる。
- ☆成長の記録として楽しく作れるようにサポートする。
- ☆個人情報の取り扱いは慎重に



子どもたちの行動は、まるで氷山のようにです。

水の上に見えている部分（行動）は、ほんの一部にすぎません。本当は、水の下にたくさんの思いが隠れています。大切なのは、“見えていない”ところに気付こうとすること。

行動には、その子なりの理由や背景があります。やさしい目で見あげることによって子どもたちは、安心して心を開いてくれます。大人が氷山の下を想像しながら関わることが、一人ひとりに合った支援へと結びついていきます。

### 参加者からの感想

- ・園内で情報共有していくことで、適切な方法を探っていけると感じました。
- ・連携する大切さを改めて学ぶことができました。
- ・個別サポートファイルや関係機関に相談できる体制があること

### 第2回 幼児教育希望研修

- ①日時：令和7年8月26日（火）14:30～16:30
- ②内容：特別な配慮を要するこどもとその保護者への効果的な支援について
- ③講師：江戸川大学 社会学部 人間心理学科 准教授 尾花 真梨子先生